

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉 稲田光朗 〈専門〉 国際経済学

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

新入生のみなさん、こんにちは。

私はこれまで中国経済をテーマに国際貿易・開発経済学の観点から研究を進めてきました。昨年着任して、大学教員として2年生になります。みなさんとのご縁を楽しみにしています。

〈書評対象本〉

(1)平野啓一郎(2012)『私とは何か——「個人」から「分人」へ』講談社現代新書

(2)大竹文雄(2005)『経済学的思考のセンス—お金がない人を助けるには』中公新書

(3)伊藤潔(1993)『台湾—四百年の歴史と展望』中公新書

(4)今野浩(2014)『工学部ヒラノ教授の青春—試練と再生と父をめぐる物語』青土社

(5)金哲彦編(2017)『正しいマラソン どうすれば走り続けられるか? タイムを縮めるロジックとは?』サイエンス・アイ新書

経済学の観点から幅広く選びました。

(1)私が大学入学した当時「本当の私ってなに?」という問いかけ「私探し」が流行っていました。市場社会における「本当の私」をどう理解すれば良いか、著者の考えを味わって見てください。

(2)NHK教育テレビの番組「オイコノミア」で、ピース又吉直樹さんとともに司会を務める大阪大学大竹文雄教授のベストセラーです。日常生活を経済学的に眺めればどのように考えることができるのか? Economics is everywhere! ぜひ本書を読んで、経済学的な世界の見方を楽しんでもらいたいです。

(3)宮崎空港からの直行便もある台湾。中国経済発展にも現地での台湾企業の活動が大きく貢献しました。台湾企業がシャープを合併する、トランプ大統領が「一つの中国」政策を堅持するかどうかという最近のニュースもありました。特に、南九州に住むみなさんが台湾の歴史を知っておくことは本当に有意義なことと考えています。

(4)将来、留学を希望する方がヒラノ教授のアメリカ青春奮闘記を読むと夢を膨らませることになるのか、留学の現実を知り希望が減少するのか分かりませんが、先人の知恵と苦勞を体験できます。

(5)少子高齢化が叫ばれる中、情報通信技術や人工知能の発展など技術が発展し、われわれに対しても、それら使いこなす高度な技能がますます要求され、人々の精神的ストレスが高まっています。このようなストレスの高い社会を気持ちよく過ごすためには、スポーツが最適です。4年間の大学生活中に少なくとも1度は青島太平洋マラソンを完走することを目標にマラソンの入門書を読んでみるのはいかがでしょうか?

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉 梅津 顕一郎 〈専門〉 情報社会学

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

新入生の皆さんこんにちは。皆さんとこれから共に学んでいけることを大変うれしく思います。

皆さんには4年間の学問経験を通じて、現代という時代と、私たちの生きている社会の在り方について考える、深い「ひきだし」をたくさん作ってほしいと思っています。

現代は先の見えない、生きづらい社会だと言われており、常に自分と社会の在り方について考え続けることが求められます。リベラルアーツである本学で学ぶことで、ぜひそのような力を身に付けてください。

〈書評対象本〉

今回は「社会を考える身近なテーマ」を念頭に、以下の4冊の本を選びました。皆さんは情報化の進んだ今の社会をどう考えますか？おそらく「便利だけど、危険な部分もあるから気を付けよう」といったところではないでしょうか。もちろんその考え方は間違いではありませんが、あくまで表面的なものに過ぎません。その背景にある、情報社会の正体をしっかり見極めようとするのが大切です。

ゼミではその答えについて、主に若者やそれに付随するものから考えていきます。

- ①有馬哲夫著『ディズニーの魔法』新潮新書、2003年
- ②武田尚子著『チョコレートの世界史—近代ヨーロッパが磨き上げた褐色の宝石』中公新書、2010年
- ③土井隆義著『友だち地獄—「空気を読む」世代のサバイバル』ちくま新書、2008年
- ④古市憲寿著『希望難民—一行様—ピースポートと「承認の共同体」幻想』光文社新書、2010年

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

それぞれの本の著者は言います。「今日世界の子供たちが触れている民話の多くが、ディズニーによって新しく作り替えられたものだ(①の主張)」、「チョコレートが美味しいのは、プロテスタントたちが近代の資本主義を発展させたから(②の主張)」、「若者は空気を読みながら、ゆる—く、心地よくつながっているが、それを保つのは、容易なことではない(③の主張)」、「ついでに言えば、若者がゆる—い、心地よい繋がりを求めるのは、社会が不透明でほんとうの居場所と言えるものが見つけづらいから(④の主張)」

一見すると極論に見えるこれらの主張には、現代社会をそれぞれの立場からの確にとらえる端緒がうかがえる主張であると思います。単に面白いだけでなく、それぞれに確かな根拠を持ち、論理的に話を組立てたうえで主張を述べているのです。

大学では、論理性をちゃんと踏まえて自分の主張を組み立てることが求められます。シラバスにもあるように、基礎演習では難しい文献を読んでまとめる力、合理的な根拠に基づいて自分の見解をまとめる力を特に養います。読む、書くは大学の基本。これまでとは全く異なるレベルでの技量が必要とされますが、私のゼミでは「アウトライン」方式というやり方で、徹底的にこれらの力を身に付けてもらおうと思っています。

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉 大賀郁夫 〈専門〉 歴史学

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。
専門は日本近世史(江戸時代史)で、本学では「歴史学」「史料学」「日本近代史」を担当しています。
歴史学は現在まで伝えられた「歴史史料」を読み解いて、そこから「過去」を復元していく学問です。「史料」は時代が遡るほど絶対数量は当然少なくなります。新たに発見された「史料」を紹介することも大事ですが、「史料」を詳細・丁寧に読み込んで、独自の「解釈」することが「歴史研究」です。したがって研究者の「解釈」によって「通説」が変わることも多々あります。今回の基礎演習は、従来の「通説」を再検討して研究の最前線を理解し、それに対して自分なりの「解釈」をすることを課題にします。

〈書評対象本〉

日本人が歴史上の人物で好きな武将は「織田信長」と「豊臣秀吉」でしょう。基礎演習Aでは、いままでの「信長像」「秀吉像」を再検討し、現在の研究の最前線を確認します。基礎演習Bでは各自が選んだ「歴史人物」について、「従来のイメージ」と「新たな像」について検討します。

書評対象本

- ①金子 拓『織田信長<天下人>の実像』(講談社現代新書2278 2014年 ¥880+税)
 - ②日本史史料研究会編『歴史新書y 信長研究の最前線』(洋泉社 2014年 ¥950+税)
 - ③藤田達生『秀吉神話をくつがえす』(講談社現代新書1907 2007年 ¥740+税)
- ①は「織田信長は本当に全国統一をめざしていたのだろうか」という視角で信長のさまざまなことをとらえ直したものです。②は従来の「超人的な信長像」を検証すべく、新しい論点を良質な史料に基づいて解明しています。③は貧しい百姓から身を起こし、ついに天下人になった秀吉の出世神話を「創作」として検証しています。

従来の説を鵜呑みにせず、疑問を持ってその解明に取り組む姿勢を学びたいところです。

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉 川瀬和也 〈専門〉 哲学・倫理学

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

みなさん、入学おめでとうございます。
私の専門は哲学で、特に19世紀のドイツの哲学者ヘーゲルの哲学の研究や、現代における哲学と科学の関係について興味をもって研究をしています。本学では、哲学・倫理学ゼミを担当しています。また、大学の教育はどうあるべきか、というテーマにも興味を持っています。
基礎演習では、哲学ではなく、私のもう一つの関心である「大学」に関するテーマを扱いたいと考えています。大学に入学したてのみなさんが、意欲を持って取り組める演習になればと思っています。

〈書評対象本〉

私の演習では、基礎演習の共通テーマである「読み書きのスキル」に加えて、「大学について考える」というテーマを設定します。このテーマに合わせて、以下の書籍を書評の対象とします。

- (1) 中山茂『大学生になるきみへ——知的空間入門』(岩波ジュニア新書)
- (2) 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』(ちくまプリマー新書)
- (3) 本田由紀『教育の職業的意義』(ちくま新書)
- (4) 荻谷剛彦『グローバル化時代の大学論2 イギリスの大学・日本の大学』(中公新書ラクレ)
- (5) 吉見俊哉『大学とは何か』(岩波新書)

多くのみなさんは、「高校は大学とは違う」「大学はとても自由だ」「大学では自分で考えることが必要だ」と言われてきたことでしょう。(1)の『大学生になるきみへ』は、そんな大学生になるみなさんのために書かれた本です。大学で学ぶとはどういうことか、大まかなイメージをつかむのに適しています。

(2)と(3)は、「キャリア」や「職業」と教育の関係を考えるための本です。3年後にやってくる就職のことで今から戦々恐々としている人もいるでしょう。大学での職業教育や、キャリアへのサポートのあり方について、少しアカデミックな観点から考えてみましょう。

(4)は、国際的な比較を通じて、また(5)は大学がたどってきた歴史との比較を通じて、現代日本の大学の置かれた状況や特徴を解き明かそうとした本です。「大学とは何か」を、より俯瞰的に考えるのに適しています。

前期の演習では、「ディスカッション学習」という方式を取り入れようと思っています。グループワーク等も取り入れながら、本を深く学問的に読み解くための力を身につけます。なお、この方法では予習が必要になりますので、その心づもりをしておいてください。この段階では、どれか一つの本を選ぶことはせず、対象本のなかから一部を抜粋したコピーを課題文として配布し、それを読み込んでいきます。

後期は、書評を実際に書いてみる段階へと移ります。アカデミックな文章を書くには、様々なコツがあります。後期の前半は、このコツを身につけてもらうための練習を行います。また、夏休みから後期の前半にかけて、実際に書評する本を選び、通読してもらいます。それを踏まえて、実際に手を動かして書評を書く段階へと移ります。

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉 川瀬 隆千 〈専門〉 社会心理学

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

「社会心理学」「コミュニティ心理学」「キャリア設計」などを担当しています。川瀬隆千(かわせたかゆき)と言います。

さて、2017年の基礎演習のテーマは「心理学の勉強をしてみよう」です。「心理学」に興味を持っている人も多いと思いますが、高校までの科目にはないので、どんな勉強をするのか、何に役立つのか、よくわからない人も多いでしょう。後期の基礎演習Bでは、以下にあげたテキスト(本)を参考に心理学の世界を見てみましょう。

前期の基礎演習Aでは、大学での勉強に必要なさまざまなスキルについて学びましょう。

〈書評対象本〉

基礎演習Bでは、以下のテキスト(本)を参考に、心理学の世界を見てみましょう(この中から1冊取り上げます)。

「証言の心理学－記憶を信じる、記憶を疑う－」(高木光太郎著 中公新書 2006年) 体験していない出来事を「見た!」「聞いた!」と証言するのはなぜか。記憶の心理学的研究から探ります。

「イギリスのいい子 日本のいい子－自己主張とがまんの教育学－」(佐藤淑子著 中公新書 2001年) こどもの自己主張と自己抑制について、イギリスと日本の比較から考えます。

「子どもという価値－少子化時代の女性の心理－」(柏木恵子著 中公新書 2001年) 少子化を出産・結婚をめぐる女性の心の問題と捉える著者の主張から、現代社会の問題に迫ってみましょう。

「日本の子どもの自尊感情はなぜ低いのか」(古荘純一著 光文社新書 2009年) 多くの子どもたちが自分に自信がなく、主観的な幸福度は他国と比べて突出して低い。なぜなのか? 調査結果や事例をもとに、自尊感情という視点から、子どもたちの現況に迫ります。

「下着の社会心理学」(菅原健介著 朝日新書 2010年) 本来、外からは見えないはずの下着に女性たちはなぜこだわり、なぜオシャレをするのか? 社会心理学的なアプローチで、その謎に迫ります。

「純愛時代」(大平健著 岩波新書 2000年) 愛は純粹であるべきなのだろうか? 過剰なまでに純粹なものを求め、現実の中で傷つき、心を病んでいく若者たちの恋愛事情を通して、現代の若者たちの心について考えます。

「言語の社会心理学－伝えたいことは伝わるのか－」(岡本真一郎著 中公新書 2013年) 「話していないのに伝わる」「丁寧に説明したのに誤解される」対人関係とことばについて考えます。

「人はいかに学ぶか－日常的認知の世界－」(稲垣佳世子・波多野誼余夫著 中公新書 1989年) 学び手の心理と文化の役割から、自ら学ぶ存在としての人間の能動性と有能さを考えてみましょう。

「学ぶ意欲の心理学」(市川伸一著 PHP研究所 2001年) 「やる気」とは何か? 「動機づけ」をどう捉えるか? 「やる気」の志向分類を通して「やる気」を高め維持するヒントを見つけよう。

これらのテキストと受講生とのディスカッションで人間の心を掘り下げていきたいと思えます。

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉 楠田 剛士 〈専門〉 日本文学

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

日本文学、特に近現代の小説を専門に研究しています。文学には、「いま・ここ」ではない「誰か」の物語が描かれていますが、にもかかわらず、読んでみると「これは自分の話だ」と感じるときがあります。そのような他者への共感や想像力を、講義や演習を通じて一緒に養っていきたいと思います。

講義は「日本文化論」「日本文学」「比較文学」を担当しますが、「日本文化論」は1年生前期必修なので、さっそく皆さんに出会えるのを楽しみにしています。

〈書評対象本〉

本学の専門課程は「言語・文化」「メディア・コミュニケーション」「国際政治経済」の3つの専攻があります。どの専攻においても、様々な表現メディア(本・雑誌・新聞・テレビ・ネット…)を柔軟に読み解き、現代社会の問題を追究する力は欠かせません。

そうした力を自分で養っていくために、本演習では以下の4冊を書評対象本として、写真・小説・音楽・映画が表象する私たちと社会との関係について考察していきます。

- (1) 多木浩二『肖像写真—時代のまなざし』岩波新書、2007年
海外における代表的な肖像写真家を取り上げて、近代のあり方を論じた本。
- (2) 廣野由美子『ミステリー—人間学—英国古典探偵小説を読む』岩波新書、2009年
イギリスの代表的なミステリー作家と作品を取り上げ、近代人のあり方を論じた本。
- (3) 高護『歌謡曲—時代を彩った歌たち』岩波新書、2011年
日本のポピュラー音楽がどのように制作され、どのように歌唱されたのかを論じた本。
- (4) 天野正子『〈老いがい〉の時代—日本映画に読む』岩波新書、2014年
戦後日本映画において〈老いがい〉がどのように描かれてきたのかを論じた本。

前期は、序章や関連した記事・論文を全員で読み、
後期は各自1冊を選んで、調査・発表しながら書評を作成していく予定です。

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉 倉 真一 〈専門〉 社会学

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

人文学は英語で、humanitiesといいます。要は人間とは何かを考えること。人間が創り出すもの、人間に関わるものから、私たち自身について考える「人間学」です。そして、それは何から考えても良いのです。だから複数形で「リベラル・アーツ＝自由な学芸」なのです。

というわけで、私の基礎演習では私たちの身近に、当たり前のようにある「モノ」から考えてみます。たかがモノ、されどモノ。モノを出発点に見えてくるものは、広くかつ深く、そして面白いです。

始めるのに必要なのは、ほんのちよつとの知的な好奇心。リベラル・アーツ入門一歩前へ、ようこそ！

〈書評対象本〉

基礎演習では、「モノ」をテーマに書かれた本を一人一冊読んで書評をします。とは言っても、いきなり一人で読んで書評を書け、といっても難しいことと思います。

そこで前期の基礎演習Aでは、全員で一冊の本を読みたいと思います。宮崎正勝さんの『モノの世界史一刻み込まれた人類の歴史』(原書房)を、皆さんと一緒に読んでいく予定です。中学・高校生向けに書かれた本で読みやすく、しかも大人が読んで「なるほど！」と思わせる本です。

後期の基礎演習Bでは、以下のリストのなかから1冊選んだうえで、各自で読みグループ発表もしながら書評を書いていきます。

どの本も一流の書き手によるもので、読めば目からウロコの発見がたくさんあることでしょう。それだけでなく、どの本にも共通するのが、一つのモノから恋愛や社交、文化や宗教、歴史や社会、政治経済から国際関係まで見えてくる、そのテーマの広がりや豊かさです。

- (1) 武田尚子、『チョコレートの世界史ー近代ヨーロッパが磨き上げた褐色の宝石』、中公新書、2010年。
- (2) 角山榮、『茶の世界史ー緑茶の文化と紅茶の社会』、中公新書、1980年。
- (3) 角山榮、『時計の社会史』中公新書、1984年。
- (4) 伊藤章治、『ジャガイモの世界史ー歴史を動かした「貧者のパン」』、中公新書、2008年。
- (5) 山下範久、『ワインで考えるグローバリゼーション』、NTT出版、2009年。

歴史系の本が多いのですが、どの本も私たちのくいま・ここ>に深く関わるテーマとして書かれています。歴史(特に世界史?)が苦手…という人でも大丈夫。むしろ苦手という人にこそ暗記ではない歴史の面白さを知るのにピッタリの本だと思います。

上記の書評リストに関して参考になる本もあげておきます。(1)(2)に関連して、川北稔『砂糖の世界史』(岩波ジュニア新書)がオススメです。高校生レベルでも読めて大学の先生もうならせる名著です。(3)に関しては同じ著者の角山榮『シンデレラの時計』(平凡社ライブラリー)が平易でオススメです。(4)については、鶴見良行『バナナと日本人』、村井吉敬『エビと日本人』 『エビと日本人Ⅱー暮らしのなかのグローバル化』(ともに岩波新書)が貧困や南北問題など共通したテーマを扱っています。(5)はワインを切り口のしていますが、特定地域のモノだったワインがいかにグローバルな世界商品になったのか、という観点は(1)~(4)に共通した問題意識といえるでしょう。

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉 阪本博志 〈専門〉 出版文化論

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

新入生の皆さん、宮崎公立大学へのご入学、おめでとうございます。
私は、近現代日本社会を、出版文化の観点から研究しています。

〈書評対象本〉

戦後の日本社会を、映画・流行歌・漫画などのポピュラー文化や、生活文化をとおして考察した本を読みます。本を読み書評にまとめることで、大学での研究に必要なアカデミック・スキルを身につけたいと思います。また本を皆で読み進めていく過程では、その本に登場する映画等の資料映像と一緒に観ていきたいと思っています。このことでさまざまな素材(データ)に考察を加えていくという、大学での学びの一端を知るとともに、その面白さを実感してもらえたらと思います。

- ① 輪島裕介『創られた「日本の心」神話——「演歌」をめぐる戦後大衆音楽史』(光文社新書、2010年)
- ② 山本昭宏『核と日本人——ヒロシマ・ゴジラ・フクシマ』(中公新書、2015年)
- ③ 吉見俊哉『親米と反米——戦後日本の政治的無意識』(岩波新書、2007年)

なお前期には、日本映画にかんする文章を読む予定です。

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉

四方由美

〈専門〉

マス・コミュニケーション論、ジェンダー論

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

皆さん、入学おめでとうございます。
この演習では、国際文化学科で学ぶにあたって幅広く柔軟に思考するスキルを身に付けることを目的として、読書をしていきたいと思えます。
私たちが日頃「当たり前」と考えていることの多くは、受けてきた教育やマス・メディアを通して「知っている」ことだといえます。「自分の意見」と確信していることもこうしたものの影響を受けています。まずは、知識を詰め込んだり暗記したりするのではなく、「当たり前」と思っていることを問い直してみましよう。

〈書評対象本〉

この演習の書評対象本は、次の5冊です。

- (1) ノーム・チョムスキー『メディア・コントロール』集英社新書、2002年
- (2) 若桑みどり『お姫様とジェンダー アニメで学ぶ男と女のジェンダー入門』ちくま新書、2003年
- (3) 浜井浩一 芹沢一也『犯罪不安社会 誰もが「不審者」?』集英社新書、2006年
- (4) 藤原聖子『世界の教科書でよむ<宗教>』ちくまプリマー新書、2011年
- (5) 阿部彩『子どもの貧困Ⅱ 解決策を考える』岩波新書、2014年

前期は、国際文化学科で学ぶためにグローバルスタディズの基礎的な事柄を学ぶほか、「メディアが構成する現実」「構築されるジェンダー観(性別の見方・考え方)」「偏見を深める宗教観」「(凶悪犯罪は増加している!など)統計の思い込み」など、「当たり前」なことがどうしてそうなっているのかについて、魅力的な書籍を用いてアプローチします。

後期は、この中から各人1冊を選んで書評を行います。書評を作成することにより、内容の理解が深まります。また、作成途中にも互いに発表し合いますので、他の人の見方や、他の本についても知ることができます。

一緒に勉強し、充実した時間を過ごしましょう。

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉 田村 恵理子 〈専門〉 国際法

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

私の専門は「国際法(international law)」です。国際関係あるいは国際社会に生じる「法」現象を対象とし、国家および非国家アクターがどのような法(道徳規範や政治的ジェスチャーとは別に)をどのような場面で相互に形成し、解釈し、実施しているかを分析しています。

なかでも、武力紛争時の犠牲者保護、(武力紛争以外の)災害その他の緊急事態における被害者の保護、および、国際社会における個人の人権保障に力点を置いて研究を進めてきました。

大学での担当科目は、「国際法演習」をはじめ、「法律学」「国際法」「国際組織法」「国際紛争と法」などがあります。

〈書評対象本〉

国際関係あるいは国際社会の在り方に、これまで相対的に大きな影響力を及ぼしてきた筆頭が「アメリカ合衆国」であることは、誰しも疑わないことでしょう。とくに日本に住む私たちにとって、合衆国との関係、合衆国を通じた他国との関係の在り方は、言うまでもなく最も重要なものとされてきました。

では、私たちは、どれほどアメリカ合衆国(United States of America)の「国家」の成立過程、「政府」の特徴、「政治」の内実、「社会構造」などを知っているのでしょうか。どれほど深い関心をもっているのでしょうか。

2016年はいわゆる「ドナルド・トランプ大統領誕生の衝撃」があり、彼ないし彼の周辺の動きが日々クローズアップされていますが、重要なのは、そのような現象を生み出した合衆国の社会的・政治的文脈であり、その歴史的経緯であり、もっと深掘すれば、合衆国の市民が抱く宗教的・思想的な信念や世界観であるはずです。

このゼミでは、「移民」をテーマに、移民という現象を通じて合衆国を多面的に知り、深く考えます。

- ①西山 隆行『移民大国アメリカ』 筑摩書房、2016年
- ②有賀夏紀、油井大三郎『アメリカの歴史—テーマで読む多文化社会の夢と現実』 有斐閣、2002年
- ③森本あんり『アメリカ・キリスト教史—理念によって建てられた国の軌跡』 新教出版社、2006年
- ④鎌田遵『ネイティヴ・アメリカン—先住民社会の現在』 岩波書店、2009年
- ⑤会田弘継『追跡・アメリカの思想家たち〔増補改訂版〕』 中央公論新社、2016年

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉 永松 敦 〈専門〉 民俗学

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

民俗学は、人々の生活そのものを扱う学問です。宮崎平野の農業、太平洋に面した漁師たちの暮らし、山間部の狩猟や焼畑の生活。一年の生活の無事に感謝して演じられる神楽などの芸能、神話や伝説、昔話の語り・・・自分たちの身の回りにある文化を、いろいろと探して見回すと意外に面白い発見があります。その手助けとなるいくつかの本を読んでいきます。本をただ読むのではなく、想像力をたくましくして、いろいろな思考を巡らせて、それを発表していきましょう。授業では時折、本の内容に関係する映像も入れたいと思います。

〈書評対象本〉

テレビで「妖怪ウオッチ」が大ヒット。道を歩くと、どこにもジバニャンに遭遇する今日この頃、興味のある人は『妖怪文化入門』がおすすめ！神と妖怪はどこが違うの？！こんな人は、『日本の神々』から入るのもいいでしょう。もっときっちり神話を知りたいという人には、『古事記を読みなおす』で、出雲神話・日向神話に浸ってください。食べ物に興味のある方は、『和食の力』や、『かつお節と日本人』、食べ物を食という概念からだけではなく、環境からとらえていくには、『生態と民俗』、『竹の民俗誌』など。食が生業や環境、昔話など、様々な文化とつながっていく広い世界が見渡せます。世界にも目を向けたい方のために、『パンの文化史』も面白いでしょう。

- (1) 小松和彦『妖怪文化入門』角川ソフィア文庫 角川書店 2012
- (2) 谷川健一『日本の神々』(岩波新書618)岩波書店 1999
- (3) 三浦佑之『古事記を読みなおす』ちくま新書 筑摩書房 2010
- (4) 小泉和子『和食の力』平凡社選書 平凡社 2003
- (5) 宮内泰介・藤林泰 『かつお節と日本人』岩波書店 2013
- (6) 野本寛一『生態と民俗 人と動植物の相渉譜』講談社学術文庫1873 2008
- (7) 舟田詠子『パンの文化史』講談社学術文庫2211 2013

後期は図書館でもっと知りたいなと思った書籍を選んで、どんどん読んでいってください。

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉 森津千尋 〈専門〉 広告文化論

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

新入生のみなさん、こんにちは。
基礎演習A・Bは、大学という新しい環境の中で、みなさんに大学生としての「学び方」を身につけてもらうための授業です。ゼミ形式の少人数授業ですので、お互いにコミュニケーションをとりながら一緒に楽しく学んでいきましょう。

〈書評対象本〉

書評対象本は以下の6冊です。「スポーツ」や「食」を通して過去と現在のつながりを理解し、それらの社会・文化的意味について学び考えていきましょう。①②③の本では、そもそも「スポーツ」とはどのようにして誕生したのか、さらに現在のスポーツ大会や選手が抱える問題について考えていきます。また④⑤⑥の本では、小麦・トマト・砂糖・チョコレート・トウガラシの誕生と普及、さらにそれらを使った料理やお菓子が世界各地の文化とどのように結びつき発展していったのかを考えます。時間をかけて本の内容を理解し、仲間と議論しながら考えることで、今までとは違う「スポーツ」や「食」の世界が見えてくるでしょう。

- ① 多木浩二 1995年『スポーツを考える—身体・資本・ナショナリズム』ちくま新書
- ② 後藤建生 2010年『ワールドカップは誰のものか—FIFAの戦略と政略』文春新書
- ③ 川島浩平 2012年『人種とスポーツ—黒人は本当に「速く」「強い」のか』中公新書
- ④ 池上俊一 2011年『パスタでたどるイタリア史』岩波ジュニア新書
- ⑤ 池上俊一 2013年『お菓子がたどるフランス史』岩波ジュニア新書
- ⑥ 山本紀夫 2016年『トウガラシの世界史—辛くて熱い食卓革命』中公新書

※前期にみんなで序章等(全冊)を読んだ上で、各自が書評する1冊を決めてもらいます。

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉 山口 裕司 〈専門〉 政治学

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

皆さんと私の年齢差は40歳以上あります。ですので共通の話題が少ないかもしれませんが、でもそれくらい年齢差があった方がいいと思っている人、どうぞ私のゼミを希望してください。基礎演習担当者のなかで私は最高齢ではないかな。私はバランスとか自然体という言葉が好きです。すべらない話も好きです。ユーモアを磨きたい人もどうぞ。勉強と親睦を両立させたいです。

〈書評対象本〉

特に私の関心が強い分野は、政治学とジェンダー論です。こうした分野に関する文献を4冊、ご案内します。皆さんにはこれらの中から1冊を選んで書評を仕上げてもらいます。いずれかに関心があれば結構です。

- ①御厨貴「ニヒリズムの宰相 小泉純一郎論」PHP新書、2006年
- ②鈴木雅則「リーダーは弱みを見せろ」光文社新書、2012年
- ③竹信三恵子「家事労働ハラスメント」岩波新書、2013年
- ④橘木俊詔「日本のエリート」朝日新書、2015年

上記の4文献の簡単な紹介をします。①は小泉純一郎元首相をニヒリズムという視点から解明したものの。

小泉は「説得しない」「調整しない」「妥協しない」という三無主義を貫いた首相らしい。②は体系的にしかもわかりやすくリーダーシップの型を解説したもの。この本を読めば誰でもリーダーシップが身に付くらしい。③は家事労働を貶めるような「家事労働ハラスメント」の現状、課題、対策を述べたもの。見えない労働の公正な評価を要請している。④はリーダー不在といわれる日本の現状を探り未来を展望したもの。日本のリーダーの問題点とは何か。

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。

基礎演習A・B 担当教員

〈担当教員名〉 新任教員 〈専門〉 経営学

〈自己紹介・学生へのメッセージ〉

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんとともに学ぶことを心から嬉しく思います。
わたしは経営学、組織や個人を対象に研究しています。みなさんの多くが、これまでも組織に関わり、これからも組織に関わっていくと思います。大学での生活でのことはもちろん、就職し働いていく中にも、多くの疑問や気づきがあることを、まずは知ってもらいたいと思います。その上で、それらに取り組んでいくことの大事さ、どうやって取り組んでいけば良いのかといったことを学んでもらえれば嬉しく思います。
真剣に楽しむことの面白さを感じてもらえるように、わたし自身も頑張りたいと思います。よろしくをお願いします。

〈書評対象本〉

今回の基礎演習A・Bでは、専門だけにこだわらず、幅広い分野から選書しました。興味に合わせて一冊を選び、じっくりと向き合ってもらえればと思います。

①は、キャリアがテーマとなっており、さまざまな学説を紹介しながらキャリアとはなにかを教えてください。「働くひとの」となっているように、ビジネスマンを対象としていますが、これからキャリアを考えていくみなさんにとっても関わりのある内容になっています。働いていくことで人生が作られていくとはどういうことなのか、少し背伸びをする気持ちで読んでもらえるといいかなと思います。

②は、経営というものがどのように作られてきたのか、歴史から紐解いていく本です。経営が誕生し発展し変化していく背景には、実は歴史的な事象や技術の進歩があって・・・ということが描かれていて、歴史が好きでなくともワクワクできると思います。

③は、上記ふたつと異なり、経営学とは全く関係なく、「考える」とはどういうことかを考えている本です。非常に平易な表現、また挿絵も多く、すぐに読めるような分量ですが、その内容自体はとても深く考えさせてくれると思います。ぜひ、自分自身で「考えるとはなんだろう？」と考えながら(!)取り組んでもらえればと思います。

本の内容は様々ですが、「読む」ってどういうことなのか、「書く」ってどういうことなのか、基礎演習を通じて考え、感じてもらえればと思います。

①金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書, 2011

②米倉誠一郎『経営革命の構造』岩波新書, 2005

③野矢茂樹『はじめて考えるときのように』PHP新書, 2013

※ 学生1人が書評する本は、上記のうち1冊のみです。